

東葛しぜん観察会

理窓公園で秋を感じる

--- 残暑に隠れた小さな秋を探しながら一緒に歩きましょう ---

杉本文江（葛飾区）

日 時：9月22日(日) 雨天中止、下見会 9月15日(日)

場 所：運河駅～利根運河～理窓公園（野田市）

申込者：30名、担当指導員：高橋重・前田・長谷川・杉本

理窓公園の周辺は夏の盛りから秋にかけて繁茂するエノコログサやイノコヅチ、コセンダングサなど馴染みのある草花が元気でした。特に利根運河の土手はセイバンモロコシで埋め尽くされていましたが、その足元の所々にツルボが花を咲かせたり、クズが葉を立てて調位運動をしている様子を見る事ができました。「熱中症のリスクがあるので、土手は時間をかけずに歩きましょう！」といながらも、時折現れるバッタやトンボをあちらに、こちらにと追いかけては…同定。藪漕ぎをしながら土手を下り、ヤブガラシやガガイモが繁みを覆う場所ではスズメバチ注意報発令！…ですが、注意をしながらヤブガラシのオレンジやピンクの花盤に満ちている蜜を味わいました…甘し。

理窓公園の森の中に入ると、風景は一変します。晩夏から花を咲かせているアキノタムラソウやツリガネニンジン、ガンクビソウの仲間やヌスピトハギなどと、スゲの仲間では珍しく秋に花をつけるナキリスゲやヤマハッカ、イヌコウジュが混在し、夏から秋へ、花のバトンタッチ。また、落ちているドングリの中にハイイロチョッキリの仕業と思しきものを見つけ、ドングリを開けて産み付けられた卵を逐一確認しました。

立派な株立ちで赤紫の花をつけたヤマハギが見えてくると、周囲にはマルバハギやネコハギ、フタバハギも。そして、ワレモコウにシラヤマギク、オミナエシ、ヒヨドリバナ、前方にはススキの葉も確認でき、一気に秋の雰囲気です。「ファンタグレープ」の香りはクズの花です。花を一つ採って、雄蕊の合着を目視するとともに味見…あっま～い！ここまでで、秋の七草の半分以上を見る事が出来ました。緑豊かな森を進むと、一本だけ茶色の葉をつけたマテバシイ。木屑は確認できませんでしたが、太い幹にたくさん穴が開いていました。カシノナガキクイムシの仕業です。近づいてじっくり観察したい場面ですが、「枯れて脆くなっている樹木はいつ枝が折れてくるか分からないので長居をせず、観察は迅速に、説明をする場合は安全な距離を取る！」とアドバイスがありました…指導員として貴重な学びです。観察ルートの終盤には、センボンヤリのポイントがあり、すでに槍を思わせる閉鎖花の花茎が伸びていました。

ゴール地点の東屋が見えてくると、ヒメキンミズヒキ、キツネノマゴ、ボタンクサギ、ヤブタバコ、クサギ、スズメウリなどが次々と現れ、蝶にも人気なボタンクサギのあたりには、チョウセンカマキリやハバヒロカマキリが登場。東屋に到着し、ヨイショと座ると目線の先に鮮やかな赤いヒガンバナの花が…。五感を総動員して小さな秋を満喫しました。担当者として初めての観察会は、残念ながら中止となってしまいましたが、下見会を通して、指導員の皆様が長きに渡って地域の自然を大切にされていることを感じ、その場に加わることを嬉しく思いました。ノートに挟んだヒヨドリバナの葉っぱが香るようになってきました。また、この場所の観察会に携われればと思っています。



ドングリの中のハイイロチョッキリの卵を確認